平成２６年度　岡山県農林水産総合センター「森林研究所（林業研究室）」
機関評価評価票

１　運営方針及び重点分野	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	１人	４人	０人	０人

助言、指摘事項等

１　「ナノセルロース」「セルロースナノファイバー」等に取り組んで頂きたい。
２　妥当である。
３　重点分野では，社会状況に応じて適切に設定を行っていると考えられる。
４　組織の運営と研究テーマの重点化については概ね妥当で、重点化に際しては、普及部門との連携や、県民からの技術相談等も活用しているように見受けられる。近隣他県との一層の情報交換を進めるとともに、中期的には「里山資本主義」等ブームへの便乗も検討の価値があると思われる。

２　組織体制及び人員配置並びに予算配分	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	１人	２人	２人	０人

助言、指摘事項等

１　妥当であるが、試験研究費の増額を求める。
２　短期的には妥当であるが、中間的な視点から若手職員の増員が望まれる。
３　様々な研究、普及，教育活動を充実させるためには，もう少し研究員を増員する必要がある。予算が厳しい状況であることは理解できるので，より多くの外部資金獲得申請が必要ではないか。森林研究所が主体となる申請も必要で，中には，主体的な申請に値する課題があると考えられる（例えば，倒木接種によるキノコ栽培方法の開発研究など）。
４　少ない人員で多様な取り組みをされていることが理解できる。
５　中期的傾向としては、人的資源、予算ともに削減される傾向にあると思われ、これは県全体の動向を反映したものと思われ、組織の努力の及ばない部分もあり致し方ない。人員や予算は必ずしも十分とは思えないが、その拡充のためにも良質な成果が求められる。なお評価で「見直しが必要」に◎をつけたのは、「拡充が望ましい」という意味であり、マイナス評価ではない。

３　施設・設備等	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	１人	３人	１人	０人

助言、指摘事項等

１　全体的に施設が老朽化している。改修の必要あり。
２　特に問題は感じられない。
３　予算に制限のある中、共同研究での機器の相互貸し借りなどで対応もあると聞くが、前向きな取り組みの中で補っている。
４　施設や機器に費やせる予算が限られる中、計画的かつ効率的に充実を図っていると認められる。大学等の関係機関との連携を通じて、機器等の相互有効利用も図られている。

４　研究成果	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	３人	２人	０人	０人

助言、指摘事項等

１　特に事後評価科目（１）シカによる森林被害の実態と対策に関する研究については、今後の皆伐から跡地造林に向かう過程において、必要不可欠な研究と思われる。更なる効率的な防除方法を検討して頂きたい。
２　間伐とマツタケ、いずれも結果を出すのに時間がかかる分野であるが、継続して取り組み、地道に成果を積み重ねていることは高く評価できる。
３　地道な調査と実験によって有用な成果が出ている。今後の発展のためにも他機関との共同研究の推進を検討していただきたい。また，成果については，森林学会など全国レベルの学会で積極的に発表することが必要である。
４　農業関係の研究に比べ、森林・林業は結果が出るまでに長い時間を要するものが多く、途中経過の部分では業績として上げにくい部分もあると推測される。特許取得など評価できる。
５　実用的かつ重要なテーマにおいて、良質な成果が得られている。農業分野への資材の供給（凍害防止資材）や食料品（栗）・特用林産物（松脂）などは産業競争力の強化にマッチしており、異分野・他業種へのアピール力も大きいと思われるので、ＰＲにいっそう注力されたい。

5　技術相談･指導、普及業務、行政検査、依頼試験、情報提供等の実施状況	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	３人	２人	０人	０人

助言、指摘事項等

1　幅広な技術相談に対して的確に対応するとともに､データベース化して相談内容を有効に活用していることは良いことである。

2　企業から多岐にわたる内容の技術相談等に対応している。更に、前述したセルロースナノファイバー等の研究を企業と共に進めるべきである。

3　特に問題は感じられないが、技術相談･指導，普及業務では，指導と普及を図った後にどのような成果がみられたのかフォローアップすることができれば,成果をより明確化できアピールすることが可能ではないか。

4　相談件数が増加傾向にあり、普及啓発につながっていると思う。

5　23～25年度をみると、特用林産物関連の技術相談が多いように見受けられる。これらは企業からの問い合わせも多いようであり、それらが民間との共同研究にも結びついているようである。先進的な取り組みを期待したい。

6　人材育成	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	１人	３人	１人	０人

助言、指摘事項等

1　森林技術者の養成をしていくためには、経験を積んだ技術者が必要なことから、専門職においては、長期的な配置が必要である。

2　中堅あるいは若手の研究員の育成に注力するとともに､他機関との共同研究などの連携をより推進することによってこれらの研究者の育成がより充実するものと考えられる。

3　少人数の組織における人材育成は，なかなか難しい点が多いと思われるが、森林総研等への研修も積極的に行われているようであり、努力が認められる。欲を言うなら、大学や民間企業等も含めフレキシブルな研修・実習の実施を検討されたい。

7　他機関との連携	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	２人	３人	０人	０人

助言、指摘事項等

1　良く連携に努めている。

2　他機関とよく連携されていると思われる｡森林に関する様々な課題は行政区で解決できるものではなく，行政区を越えた地理的あるいは生態的な地域レベルで解決を図る必要があるので，行政区を越えた連携をより推進していただきたい。

3　近県や他機関との連携は図られていると思う。特にシカ防除やナラ枯れなどについては、県単位にとどまらず、それら関連機関との連携した対策が望まれる。

4　大学、民間企業、他自治体、森林組合等積極的な連携協力が認められる。レベルの高い共同研究にも結びついているようであり、引き続き努力されたい。

8　県民・地域への貢献	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	２人	２人	１人	０人

助言、指摘事項等

1　よい研究成果を上げているとは思われるが、業界内での盛り上がりに過ぎず、おかやま森づくり県民税を使っての事業も今後増えることから、県民へのアピールを更に推し進めて頂きたい。

2　多様な手段により、成果を広くわかりやすく公表している。成果発表会や森林学習講座がいずれも盛況であるのは高く評価できる。

3　県民･地域への貢献度は高いと考えられが，もっとアピールして認知度を高める必要があるのではないか。

4　成果はホームページをはじめ、研究報告や業務年報、学会誌投稿、一般向け講座、発表会など行われ、積極的な情報の発信が行われている。マスコミ等への掲載は一般に対しての効果が大きいと思うので、積極的な利用を図られてはどうか。

5　4、5，7などの項目を通じて、県民への貢献が認められる。また、講座や発表会を通じた情報発信、Webによる発信など一定の努力が認められる。欲を言えばきりがなく、現状の体制の中では十分に評価できる。

９　前回指摘事項への対応	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	１人	４人	０人	０人

助言、指摘事項等

１　引き続き外部資金の獲得に努力して頂きたい。
２　外部資金の獲得に向けて努力し、実績をあげたことは特に評価できる。
３　外部資金の獲得では，森林研究所が主体となる資金獲得申請が必要ではないかと思われる。
４　前回の指摘事項に対して、基本的に真摯な対応が見られる。

総　合　評　価	非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
	０人	２人	２人	１人	０人

助言、指摘事項等

１　優秀な研究機関であるが、あまりにも県民の周知が少ない。県議の中には、「何をしているのか分からない機関は、無くてもよいだろう。」と言われているのを耳にしたことがある。有効な県民へのアピールが必要であると思われる。成果の普及についても、「林政」「現代林業」は、マニアチックな冊子であり、市役所等にゴミの様に山積みにされているのを見たことがある。一般市民が簡単に楽しく読めるような冊子を作り、成果のアピールをしていくべきである。
２　限られた予算、人員配置の中で成果をあげ、その成果をわかりやすく公表し、また県民の技術相談等にも的確に応じ県民にとってなくてはならない機関である。森林林業の発展のため、中長期的な視点をもってさらなる充実を図っていただきたい。
３　全体的に特に問題は感じられないが，外部資金の獲得，研究成果の公表，共同研究の推進，地域への認知度の向上など，外に対してよりアピールしていくように努めていただきたい。
４　少ない人員、潤沢とは言えない予算の中で、よく健闘されていると思われる。
５　各項目で触れたように、基本的にはどの項目も一定水準以上の評価ができる。近年では、社会情勢を反映して、研究期間が短縮される傾向にある。また「目先の成果」が得られやすいテーマが優先されがちになっている。これは、いずれの自治体、独法などでも共通の悩みであるが、そうした中で地味でオーソドックスな林業課題をどのようにこなしていくか知恵を絞る必要がある。特効薬的な対応方法が簡単に見つかるとは思えないが、他機関との連携強化（テーマの分担など）などが一層重要になると思われる。